

指標名：中小企業の業況(2014年5月)

発表日：2014年5月28日(水)

～増税の反動は一服、景況感は持ち直しか～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 越前 智亜紀  
TEL : 03-5221-4526

## ○反動減の影響は一服

商工中金から公表された「中小企業月次景況観測」（調査時点：5月上旬）によると、5月の景況判断指数は46.6（前月差：+1.2pt）と、駆け込みの反動による影響を受けた4月から小幅に改善した。先月の予測DIが44.4であったことに鑑みると、中小企業での反動は想定の範囲内で収まったようだ。一部業種では底打ち感がでてきているものの、全体としてみれば50を下回る低い水準にとどまっており、増税の影響が残存している様子が窺える。産業ごとにみると、「製造業」が45.1（前月差：▲0.6pt）と悪化した一方、「非製造業」は47.7（同：+2.5pt）と改善した。業種別では全15業種のうち9業種で改善、6業種で悪化した。

仔細に見ると、「小売」（4月：36.0→5月：40.5）、「卸売」（41.5→46.0）、「飲食店・宿泊」（37→59）は反発し、4月からの一段の悪化は避けられた。「小売」、「卸売」では「消費税率引き上げ後の消費動向等について（5月第3週）」（内閣府）でも確認されているように、駆け込みの反動減の影響が和らいでいる可能性がある。「トラック運送」（47→48）の改善も消費の回復を映じたものとみられる。

製造業では、「輸送用機器」、「鉄鋼」、「電気機械」、「一般機械」が堅調さを保った。「輸送用機械」（50→51）、「鉄鋼」（50→54）は50を一貫して上回っているうえ、駆け込み需要の対応が始まっていたとみられる昨年12月よりも高い水準にある。「電気機械」（45→51）はまとまった幅で回復し、駆け込みの影響が相対的に小さかったとみられる「一般機械」（47→50）も50を回復した。その他、一足早く駆け込みの影響を受けたと思われる「不動産」（50→52）で改善が見られたほか、「建設」（54→52）も悪化はしたものの、50超を維持した。

一方、「木材・木製品」（41→34）、「繊維」（45→44）、「印刷」（45→40）、「金属製品」（41→37）、「化学」（47→45）はいずれも落ち込み、引き続き増税の影響が見られた。これら業種では6月の予測DIの反発も鈍く、今後の持ち直しを楽観視できる内容ではない。

## ○先行きは改善、景況感も持ち直しが期待される

先行きは（6月・商工中金調査）は、全産業で48.7（5月比+2.1pt）、製造業は48.0（同+2.9pt）、非製造業は49.2（同+1.5pt）と改善が見込まれている。先日発表された景気ウォッチャー調査（企業動向）でも、5月の先行き判断DI（49.9）は改善が見込まれていた（4月現状判断DIは48.5）。これらを踏まえると、消費増税の落ち込みは、5月中には底を打つことが期待され、6月には持ち直しの動きが見えてくるだろう。

そうした中、米経済の回復を背景にした輸出の加速や企業の設備投資増加が見込まれ、景気の持ち直しが期待される。また、アジア通貨危機や国内金融システム不安に見舞われた前回増税時と比べ、中小企業を取り巻く環境（資金繰りなど）は、今次局面の方が格段に良い点も重要だろう。倒産件数も97年当時に比べ減少傾向にある。このような背景を踏まえ、規模の大小を問わず企業の業況は改善に向かうと予想する。

